

13. 労働安全用具技術分野における 国際標準化アクションプラン

1. 分野の全体概要・最近の動向

労働安全用具分野では、労働者の安全を確保するために必要とされる、防護服、安全靴、安全帯、ヘルメット、呼吸用保護具、保護めがねなどで国際標準化活動を行っている。

具体的には、ISO/TC85（原子力）/SC2（放射線防護）、TC94（個人用安全—保護衣及び保護具）及びその下の各 SC 及び WG で活動を行っており、SC の具体的活動は次のとおりである。

【ISO/TC85（原子力）/SC2（放射線保護）】

α 線、 β 線、X線、ガンマ線、中性子線、宇宙線などの放射線による人体の被ばく防護を目的とし、フィルムバッジ、固体飛跡線量計、などの個人線量計、生物学的線量評価法、各種線源、遮へい体、防護服、性能要件の設定及び環境放射能の測定、評価などの国際規格を扱っている。

【ISO/TC94（個人用安全—保護衣及び保護具）】

放射線以外の各種災害から人体を保護するための衣服及び機器の品質と性能に関する国際標準化を進めている。長期不在であった議長ポストに2007年9月に日本から議長が選出され、幹事国であるオーストラリアと共にビジネスプランの改訂を引き続き検討する事としている。

【ISO/TC94/SC1（安全帽）】

1987年以降委員会活動が停止していたが、アメリカの幹事国引受けにより、2002年に第1回会議が開催された。しかしながら、議長の病気により現在活動が休止状態となっている。

SC1のWG活動項目は、次のとおりである。

WG1（テスト用人頭模型）、WG2（試験方法）、WG3（用語と定義）、WG4（表示関係（警告を含む））、WG5（反復衝撃用（スポーツ用など））、WG6（1回衝撃用（産業用など））

【ISO/TC94/SC3（安全靴）】

実質的な活動はCENに委ねられており、BS規格を基本としてISOで審議されるケースが多い。活動が停滞している。

【ISO/TC94/SC4（安全帯）】

途上国の関心が高いこともあり、途上国のOメンバーからPメンバーへの移行を進めている。活動があまり活発ではない。

【ISO/TC94/SC6（保護めがね）】

2007年3月に就任したイギリスの新幹事、新議長の下、次の各WGにおいて活発な活動が行われている。

WG1（定義）、WG2（試験方法）、WG3（サングラス）、WG4（職業における目と顔面保護）、WG5（スポーツにおける目と顔面保護）

【ISO/TC94/SC13（防護服）】

2008年10月のハーン会議（ドイツ）において、WG1のコンビーナがオーストラリアからベルギーに、WG2のコンビーナがアメリカからイギリスに交代した。

また、規格作成においては、欧州規格とアメリカ規格の競い合いがあるが、両者を整合させた規格作りの努力が行われている。しかしながら、概してアメリカ規格は要求性能が高く、性能基準でコンセンサスが得られない場合がしばしば認められる。

防護服に関しては、日本の産業界でも関心が高い分野である。具体的なWGの内容は、以下のとおり。

WG1（防護服の一般特性）、WG2（熱と炎に対する防護服）、WG3（危険化学薬品及び生物学的危険物質に対する防護服）、WG5（機械的作用に対する防護服）。

【ISO/TC94/SC14（消防用個人防護装備）】

建物火災用、原野火災用、有害物質用、レスキュー用までの消防活動分野別にそれぞれ頭頂ヘルメット、めがね、呼吸器、防護服、安全帯、足先の靴まで統一した考え方で標準化する事を目的としている。

しかしながら、多数の製品と専門分野を包含した一大規格作成を狙っているため、各国の調整などもあり、審議が進まず、5年ルールにより廃案になる規格案が続出している。具体的なWGの内容は、次のとおり。

WG1（一般要求事項）、WG2（建物火災用個人防護装備）、WG3（原野火災用個人防護装備）、WG4（有害物質用個人防護装備）、WG5（レスキュー用個人防護装備）。

【ISO/TC94/SC15（呼吸用保護具）】

呼吸用保護具は、一般産業用、原子力産業用、消防作業用などの用途に恒常的に使用されているが、近年では、テロ対策用、火山噴火対策用、鳥インフルエンザ対策用、アスベスト対策用などの用途にも需要が拡大している。このような状況の下で、SC15では、欧州、アメリカ、日本の三者がそれぞれの国内規格状況を配慮しながら合理的な規格作成に努めている。

なお、欧米と我が国では体格と労働環境に格差があるため、欧米主導で規格化が進むとISOへ整合化させられなくなるため、積極的に国際会議に出席し、日本の意見も反映出来るよう国際標準化活動を行う必要がある。具体的なWGの内容は、次のとおり。

WG1（一般事項）

PG1（用語、定義及び単位）

PG2（選択、使用及び保守管理）

PG3（表示及び情報）

PG4（試験方法）

PG5（ヒューマンファクタ）

	PG6 (クラシフィケーション)
WG2 (ろ過式呼吸用保護具)	PG1 (フィルタ)
	PG2 (呼吸インターフェイス)
	PG3 (システム)
WG3 (吸気式呼吸用保護具)	PG1 (呼吸用ガス供給管理)
	PG2 (呼吸インターフェイス)
	PG3 (システム)

2. 重点 TC の選出及び国際標準化戦略 (中期的計画及び課題)

(1) 労働安全用具技術分野における重点 TC・SC

6. (1) に示す。

(2) 国際標準化戦略

労働安全用具の品質を維持するために、国内法規 (労働安全衛生法) への適合と国際規格を含めた適切な規格の開発が重要である。特に、市場の国際化の進展に伴い国際規格の役割が益々重要となっている。

この分野の国際標準化は、国ごとの労働環境及び考え方の違いなどのため標準化が難しい分野であるため、欧米任せではなく、積極的に我が国の意見も取り入れられるよう活動を行っていく必要がある。

このため、我が国が引き受けている TC94 の国際議長と連携し、ビジネスプランの改訂の働きかけを引き続き行うとともに、国際的にイニシアチブを取れるよう国際規格への積極的な提案、発言を行う。

また、2007 年の日韓基準認証定期協議により構築された日韓協力体制により、日韓の情報交換を強化し、共同提案の可能性を検討する。

なお、SC15 においては、提案された規格をそのまま審議するのではなく、参加国から様々な意見や規格を持ち寄り審議する形態で規格作りを行っており、規格の制定改正作業は早くないが、参加・提案する事により日本の意見を反映できる可能性がとても高いため、引き続き積極的に参加し、提案を行っていく。

3. 重点 TC の活動状況

○ISO/TC94 (個人用安全—保護衣及び保護具)

ビジネスプラン改訂、及び TC94 会議の開催について引き続き議論を行っている。

○ISO/TC94/SC6 (保護めがね)

WG3 (サングラス) において、曇り度基準の測定方法などの検討が行われた。また、WG4 (職業用眼及び顔面保護) においては、昨年提案したニッケル溶出項目について考慮され、オプションの方向性が支持された。更に WG4/PG4 (レーザー) において、照射体制の提案がプロジェクトリーダーの預かり案件となっている。

○ISO/TC94/SC13（防護服）

10月に行われたドイツ、ハーン会議において、活動の活発化を理由にWG1のコンビーナ国がオーストラリアからベルギーに、WG2のコンビーナ国がアメリカからイギリスに交代となった。欧州とアメリカの競い合いは従来どおりではあるが、最近では、欧州の影響力が強くなっている。しかしながら、統合化させた規格を作ろうとする努力も認められる。

○ISO/TC94/SC14（消防用個人防護装備）

WG2（建物火災用）、WG3（原野火災用）、WG4（有害物質用）、WG5（レスキュー用）と、消防活動分野に頭頂ヘルメットから足先の靴まで、全ての装備に整合が取れた性能と標準化が望まれており、統一した考え方で標準化する事を目的としている。

○ISO/TC94/SC15（呼吸用保護具）

SC15は提案された規格をそのまま審議するのではなく、参加国から様々な意見や規格を持ち寄り審議する独自の規格作成の形態をとっているため、完成された一国の規格の新規提案よりも、会議出席などにより審議内容の情報収集及び必要な部分への提案など個別に対応することが重要である。

具体的には、防毒マスクに使用されている吸収缶の大きさが検討の結果、各国の意見を盛り込む形で賛同が得られたため、現在は規格案の作成が行われている。

4. 我が国の活動実績（2008年）

（1）全体概要

TC94においては、我が国が引き受けている国際議長と連携し、TC94のビジネスプランの改訂及びTC94の会議開催について検討、幹事国への働きかけを行った。

各個別SCについては、活動が活発な分野については、積極的に会議へ出席すると共に、審議案件の規格について、部分提案なども積極的に行った。また、日韓協力体制の検討により、相手国のコンタクトパーソンとの間で情報交換を試み、共同提案の可能性について検討した。

（2）活動実績

①新規提案数

6.（2）.①照

②国際会議参加実績

6.（2）.② a)参照

③日本での開催実績

6.（2）.② b)参照

④幹事国・議長等引受実績

- ・ TC議長：1名（6.（1）.②参照）
- ・ PTリーダー：13名

5. 我が国の活動計画（2009年）

○ISO/TC94（個人用安全—保護衣及び保護具）

ビジネスプラン改訂の働きかけを引き続き行うと共に、TC94会議の開催についても幹事国へ働きかける。

○ISO/TC94/SC6（保護めがね）

WG2（試験方法）、WG4（職業顔面保護）において、各々会議開催が予定されているため、出席を予定。また、WG4/PG4（レーザー）における要求内容の検討が予定されているため、製品範囲の検討を行う。

○ISO/TC94/SC13（防護服）

防護服については、日本の産業界も関心が高い分野であるため、原案審議段階において、日本から修正提案を行うことがあるが、概ね受け入れられている。具体例としては、WG2において火炎用バーナのノズル系が規定されており、総熱流束が規定されていたため、削除を申し出、次回定期見直しでの削除が合意された。また、WG3においては定期見直し案件について改正要求を行い、ISO22609において正誤表にて対応する事になった。また、今年も定期見直しが10件程度予定をされているため、その内容についての検討及び提案を行う。

○ISO/TC94/SC14（消防用個人防護装備）

WG2（建物火災用）、WG3（原野火災用）、WG4（有害物質用）、WG5（レスキュー用）と、消防活動分野に頭頂ヘルメットから足先の靴まで、全ての装備に整合取れた性能と標準化が望まれており、統一した考え方で標準化する事を目的としている。日本としても、統一した考え方で標準化は重要と考えるため、日本からも積極的に会議へ参加し、提案を行う。SC14においては、日米欧の連携により標準化を進めていく。

○ISO/TC94/SC15（呼吸用保護具）

SC15は独自の規格作成を行っているため、新規提案よりも会議出席などによる情報収集及び審議内容への個別対応が重要である。よって、現行JIS、国内法規などと比較し、こまめに日本の意見を反映できるよう積極的に活動していく。

6. 参考資料集

(1) ①労働安全用具技術分野のISO/TC/SC及びWGの活動状況及び重点分野

TC 番号	SC 番号	WG 番号	名称	参加 地位	国内審議団体	幹事国	日本 議長	日本 主査	重点 分野
85			原子力	P	(社)日本原子力学会	仏			
		2	原子力/放射線防護	P	(社)日本保安用品協会	仏			
94			個人用安全一保護衣及び保護具	P	(社)日本保安用品協会	豪	○		◎
		1	個人用安全一保護衣及び保護具/安全帽	P	(社)日本保安用品協会	米			
		3	個人用安全一保護衣及び保護具/安全靴	P	(社)日本保安用品協会	英			
		4	個人用安全一保護衣及び保護具/安全帯	O	(社)日本保安用品協会	豪			
		6	個人用安全一保護衣及び保護具/保護めがね	P	(社)日本保安用品協会	英			◎
		12	個人用安全一保護衣及び保護具/聴力保護	N	(社)日本保安用品協会	豪			
		13	個人用安全一保護衣及び保護具/防護服	P	(社)日本保安用品協会	スイス			◎
		14	個人用安全一保護衣及び保護具/消防用個人防護装備	P	(財)日本防災協会	豪			◎
	15	個人用安全一保護衣及び保護具/呼吸用保護具	P	(社)日本保安用品協会	独			◎	

注1)◎印がついているのが重点分野

注2)日本議長、主査には○印

②労働安全用具分野計

TC 数	SC 数	WG 数		幹事	議長	主査
2	9	40	日本引き受け数	0	1	0

(2) 2008年活動実績データ

①提案規格数 新規0件、改正0件

②国際会議実績

a)参加実績 延べ109人

b)日本での開催実績

TC 番号	SC 番号	WG 番号	開催地	開催期間
94	15	2 & 3/ PG3	東京	2008.04.07~04.09
94	15	2/ PG1	東京	2008.04.10~04.11 2008.04.13~04.14

